

中国の報道に見る 中国・ラテンアメリカ関係

工藤 章（ラテンアメリカ協会 専務理事）

小山 雅久（日中関係学会 副会長）



はじめに

中国がラテンアメリカに積極的に接近して同地域での存在感を高めていったのは、2001年に世界貿易機関（WTO）に加盟して以降である。ラテンアメリカは、最近の10年間、習近平国家主席が主導する「一帯一路」構想に包含され、中国企業の有力な進出地域となっている。

これにより中国国内でのラテンアメリカの政治経済情報の需要が高まり、中国関係メディアもその発信力を高めてきた。その有力なメディアとしては、国营通信社の新華社と中国共産党機関紙の人民日報が挙げられる。新華社の出先は、ラテンアメリカ域内だけで23か所（本部はメキシコシティ、ブラジルにはブラジリア、リオデジャネイロ、サンパウロの3か所）あり、連日記事を配信している。人民日報は、リオデジャネイロやメキシコシティに特派員を置いて精力的に発信しており、中国の経済外交戦略を支えている。これに加えてCCTV（中央電視台）というテレビ媒体もある。

各国首脳中国訪問は国の規模にかかわらず、必ずトップ記事で報道されるので、外交活動の動静はとらえやすい。官製メディアとはいえ、中国の動向を知る上で欠かせない情報源となる。もちろんメディアとは別に、中国の大使館、中国国際貿易促進委員会（CCPIT、日本のJETROに相当）の現地事務所、中国社会科学院、中国国際問題研究所、主要大学のシンクタンクの地域専門家等による情報が出版物やインターネットを通じて発信されており、日本の情報力やネットワークを凌駕しているようにも感じられる。

本稿では、この過去半年ほどの人民日報の現地特派員の報道を中心に幾つかの記事の要旨を紹介しつつ、中国とラテンアメリカの関係や中国のラテンアメリカ戦略を読み解いていきたい。

中国の世界戦略

中国は、2010年にGDPで日本を抜き世界第2位

になり、更に国民の生活水準の向上に伴う国内需要の拡大が続いている。それに対応して、食料や資源・エネルギーの海外依存が増大してきた。このような状況下、習近平国家主席は、2013年に中国とヨーロッパを結ぶ広域経済圏構想「一帯一路」を打ち出したが、この構想は欧州にとどまらず今やラテンアメリカ・カリブ地域にまで到達している。次の報道から、中国がラテンアメリカ・カリブ地域をどのように位置付け、どのように関係を促進しようとしているかが読み取れる。

●ラテンアメリカの輸出が伸長（国際視点）～中国とラテンアメリカの協力の深まりが重要な力に～
（『人民日報』2024年2月5日第15面、リオデジャネイロ電、宋亦然記者）

ラテンアメリカ・カリブ諸国（以下、LAC諸国）には資源の優位性があり、各国は対外貿易拡大策を続け、輸出商品も多様化、その規模は2023年に更に伸びた。国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（ECLAC）のサラザール・シリナキス事務局長は、LAC諸国が直面する大きな課題はいかに輸出を多様化するかであり、各国に原材料への過度の依存を減らし、産業クラスターの開発を強化するよう提言してきた。

近年、中国とLAC諸国の間の二国間貿易は急速に成長している。2023年、輸出入貿易額は前年比6.8%増の3兆4400億人民元に達し、数年連続で大きく成長している。中国との経済貿易協力の深まりは、LAC諸国の輸出拡大と経済の持続的成長に重要な役割を果たしている。ECLACによれば、2023年のLACの経済成長率は1.7%、ブラジル、コスタリカ、ガイアナなど12か国の輸出は拡大。サービス貿易も総じて伸びており、特に観光、金融、ITなどのサービス部門で顕著である。

貿易手続の簡素化も輸出の安定成長に貢献している。国連貿易開発会議（UNCTAD）によれば、貿易のデジタル簡素化におけるLAC諸国の平均実施率は

71%で全世界平均の69%を凌いでおり、貿易簡素化協定や自由貿易協定（FTA）なども輸出拡大にプラスに作用している。

対中貿易の新たな進展が見られ、赤道地帯のトロピカルフルーツ、パンパ草原の牛肉、アンデス山地のワイン、熱帯雨林のコーヒーなどの中国への輸出は拡大し、LAC 諸国の農産物の中国市場への参入が活発になっている。2012 年以降中国は LAC 地域の第二の貿易相手国であり、また第三の投資先となっている。個別に見てもブラジル、チリ、ペルー、ウルグアイにとって中国は最大の貿易相手国だ。2023 年には中国はエクアドル、ニカラグアと FTA を締結、ラテンアメリカとの FTA 締結国は 5 か国となった。

電子取引は中国系の進出拡大の大きな推進力となっている。中国の電子取引企業大手の SHEIN はブラジルに工場を開設、AliExpress も 2023 年 10 月にブラジル市場での投資を発表した。

中国は金属資源産出・輸入の大国

中国は金属資源大国であるが、鉄鉱石、銅鉱石、ボーキサイトなど中国の需要は国産では到底まかないきれない。また主要金属のみならずレアメタルも同様で、IT 関連や電気自動車（EV）での需要が増えているリチウムの海外調達が目立っている。

●中国企業によるボリビアの炭酸リチウム工場プロジェクトが竣工（『人民日報』2023 年 12 月 19 日 14 面、リオデジャネイロ電、時元皓記者ラパス発）

中国企業が請け負ったボリビアの炭酸リチウム工場プロジェクトの竣工式が行われた。ボリビアのアルセ大統領は式典に出席し、このプロジェクトの竣工はボリビアがリチウム産業に正式に参入したことを意味すると述べた。同プロジェクトはウユニ塩湖沿岸に位置し、中国機械設備工程総公司（CMEC）と中国鉄道第九局大連支社が 2018 年に土木建設を請け負うことでボリビアのリチウム公社との契約協議書に調印した。プロジェクト立ち上げ以来、新型コロナウイルスの影響を乗り越え、持続可能な民生に利する目標に向けて準備が進められ、今年（2024 年）7 月 25 日に仮検収を終えていた。

式典でアルセ大統領は「今日は歴史的な日だ。工場の稼働はボリビア経済史における重要な一歩だ」と述べた。ウユニ塩湖はボリビア南部のポトシ県にあり、アンデス山脈の標高約 3700m に位置する。ボ

リビア政府のデータによると、ウユニ塩湖の総面積は 1 万 km² はあり、世界最大の塩田だ。湿地の塩水にはリチウム、ホウ素、カリウム、マグネシウム、ナトリウムなどの鉱物資源が豊富で、リチウム埋蔵量は 2100 万トンを超えている。

中国は鉄道大国

中国の鉄道の総延長は約 7 万 km で米国、ロシア、インドに及ばないが、乗客と貨物の総輸送量は断トツの世界一である。ここ 10 年で、高速鉄道建設、設備製造、運営管理をカバーする体制を構築し、世界トップ水準にある。ラテンアメリカは鉄道インフラの充実を図っているが、中国の動きを次の二つの報道から知ることができる。

●中国製の地下鉄列車がメキシコで運行開始（『人民日報』2024 年 3 月 27 日第 15 面、メキシコシティ 3 月 26 日電、謝佳寧記者）

CRRC（中国中車株洲電力機関車有限公司）が首都メキシコシティ地下鉄 1 号線向けに特別に開発した NM22 ゴムタイヤ式地下鉄車両が、最近正式に運行を開始した。列車は 9 両編成で最高時速 80km、最大乗客定員は 2252 人。この列車の革新的なところは、大きなゴム車輪走行で小さなゴム車輪がガイドする方式を採用、登坂力は 8%、半径 45m カーブ走行可能な点であり、低騒音で省エネ、安全性を高めた。メキシコシティ地下鉄 1 号線は 1969 年に開業し、全長 18.83km、20 の駅があり、1 日の平均乗降客は約 100 万人で、メキシコで最も重要な地下鉄路線だ。

●コロンビア地下鉄の建設と運営に貢献（『人民日報』2024 年 4 月 20 日第 3 面、張丹華記者）

「閘瓦」（Train Brake Shoe）、西安鉄道職業技術学院の外国人留学生宿舎にいるコロンビア青年がこの新しく学んだばかりの用語を紙に書き留めた。「これはコロンビアと中国の協力に役に立つ。西安での研修機会はとてもありがたい」と語る。青年の名はフリオ 27 歳、コロンビアのカトリック大学で土木工学を専攻。2019 年西安軌道交通有限公司（西安地鉄）と中国港湾工程有限責任会社のコンソーシアムがボゴタの地下鉄 1 号線建設案件を落札。昨年 9 月にフリオ以下 9 名が本プロジェクト研修生第一陣として西安に来訪し、1 年間の研修がスタートした。

ボゴタ地下鉄 1 号線はコロンビア初の鉄道交通ブ

プロジェクトであり、2028年に正式に運行開始される予定で、ボゴタ市民の「地下鉄の夢」が現実になる。2022年にサント・トマス大学土木工学科卒業のリン・ナは、西安地鉄が開発した個別コースを通じて「ここで鉄道交通に関する多くの専門知識を学んだ」と記者団に語った。鉄道輸送の運行管理について、保線、車両保守、信号制御、輸送組織、安全・安心などあらゆる分野の基礎知識を学ぶ。理論的な学習に加え6か月間の実地研修も受ける。(後段略)

中国の技術支援

中国の「一帯一路」は、「科学に国境はなく、全人類に利益をもたらす」という原則を守り、手を携えてグローバル科学技術共同体を構築するとの戦略を携えている。この方針を次の二つの報道から読み取れる。

●中国・ブラジル国交樹立50周年記念セミナーをブラジルで開催(『人民日報』2024年4月19日第3面、リオデジャネイロ4月17日電、陳一鳴記者)

4月17日首都ブラジリアで中国とブラジルの国交樹立50周年記念セミナーが開催された。このセミナーは中国社会科学院ラテンアメリカ研究所とブラジル国際関係研究センターが共催、「持続可能な世界の構築に向けた協力」がテーマで、両国関係、低炭素経済とエネルギー転換、農業革新とエコロジー変革、貧困と社会的不公平の撲滅、グローバルガバナンスシステムの改革などが主たるアジェンダだ。開発・産業・サービス大臣でもあるアルキミン副大統領は「中国の持続的な経済発展と需要の伸びが、ブラジルの経済回復にとって非常に重要であると認識している。ブラジルは素晴らしい時期を迎えており、中国はこれの中で極めて重要な役割を果たしている。我々はお互いに努力し包括的な発展を実現したい」と語った。

●習近平国家主席の第1回「中国・中南米・カリブ海諸国宇宙協力フォーラム」宛祝賀メッセージ(『人民日報』2024年4月25日第1面、新華社4月24日北京電)

今年はLAC諸国指導者と共に中国・CELAC(ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体)フォーラム設立10周年を共同で宣言した。過去10年間、中国・CELACフォーラムの枠組みの中で、中国とラテン

アメリカは様々な分野での友好協力を進め、平等、互恵、革新、開放、民生の新たな時代へと推し上げてきた。

近年、中国とLAC諸国の航空宇宙協力が着実な成果を上げており、リモートセンシング衛星、通信衛星、宇宙ステーションネットワークの分野での協力で新たな進展を遂げ、科学技術の進歩、地域相互ネットワークの強化、国民生活と福祉向上において重要な役割を果たしている。中国は、第1回中国・ラ米フォーラムを出発点として、LAC諸国と協力し、ハイレベルの協力パートナーシップを構築し、宇宙技術が双方国民に恩恵をもたらす未来を共有する中国・LAC共同体の構築推進を願う。中国国家航天局と湖北省人民政府の共催で、第1回「中国・中南米・カリブ海諸国宇宙協力フォーラム」が同日、湖北省武漢で開催した。

おわりに

これらの中国での報道からは、日本ではあまり知られていない中国政府の戦略や企業活動が見て取れる。中国がスケールの大きい動きを活発化させていく中、日本が長い間築いてきたLAC諸国との友好関係を強化するためには、新たな戦略的な対応を考える必要があるだろう。

本年2月に日本政府は「中南米外交イニシアティブ」という戦略を発表した。この戦略の具体策を検討する際、中国との協調・協業も視野に入れる必要があるのではないか。アルゼンチン、チリでのリチウム鉱山やガイアナでの油田の開発のように、中国企業の欧米企業との共同投資案件は数多くある。欧米の動きを参考に、日本も中国と相互の強みを生かし、また相互補完しながら、LAC諸国にとってベストなフォーメーションを創り上げていくことが求められている。

(くどう あきら ラテンアメリカ協会 専務理事／
こやま まさひさ 日中関係学会 副会長)